

耐暑性品種

「恋の予感」のご紹介

《生産》

○どうして品種を切り替えるの？

近年、登熟期間中の高温の影響で「ヒノヒカリ」の**胴割れ、腹白**といった**高温障害が多発**しました。

このため、登熟期の高温条件でも玄米品質の優れた「**耐暑性品種の導入**」が必要であると考え、県行政、JAグループ広島、広島県穀物改良協会などで現地試験を行い、平成26年に奨励品種に採用となり、**耐暑性・食味に優れる**「恋の予感」を導入することとしました。

○「恋の予感」ってどんな品種なの？

- ・「ヒノヒカリ」に比べ、高温条件でも玄米品質が低下しにくいです。
- ・「ヒノヒカリ」と比べ、短稈で倒れにくく、**約8%多収**です。
- ・炊飯すると粒感があり、酢飯や炊き込みご飯にもおすすめです。



図1 恋の予感



図2 ヒノヒカリ

○栽培のポイントは？

- ・**成熟期が「ヒノヒカリ」より2～4日程度遅い品種です。**（夏季低温年は、さらに10日程度遅くなる可能性があります）
- ・育苗期の高温により葉がやや長く伸びやすい傾向があるため、育苗期の温度管理にご注意ください。
- ・「ヒノヒカリ」に比べ、穂いもちには強いですが、葉いもちに弱いので適期防除に努めてください。
- ・白葉枯病にやや弱いため、本病常発地での栽培は控えてください。
- ・葉色が薄く、落ちにくい品種ですので、追肥・刈取り時期にご注意ください。
（追肥・刈取りのタイミングはお近くのJAへご相談ください）

「恋の予感」と「ヒノヒカリ」の品種特性表

	南部地域		県内研究機関		備考
	恋の予感	ヒノヒカリ	恋の予感	ヒノヒカリ	
熟期	中生の晩	中生の晩	中生の晩	中生の晩	
生育収量特性	草型	偏穂重	中間	偏穂重	中間
	出穂期	8月24日	8月22日	8月22日	8月21日
	成熟期	10月11日	10月8日	10月6日	10月4日
	稈長(cm)	81	83	81	85
	収量(kg/10a)	555	514	582	514
	玄米重標準比(%)	108	100	113	100
	千粒重(g)	22.2	21.1	21.2	20.8
	整粒歩合(%)	74.6	60.5	中の上	中の上
食味	蛋白含量	7.7	7.4	5.8	6.3
	食味 (官能検査等)	良	良	上の中	上の中

※南部地域におけるデータは、広島県穀物改良協会栽培試験参照。

県内研究機関におけるデータは、県内研究機関試験栽培データ参照。

《販売》

○名称・パッケージについて

本品種は、名称、パッケージ（左図）を一般公募によって、多数の応募のなかから本品種にぴったりの名前とデザインが選ばれました。

名称由来：ひとたび食すると恋するようなきめきや情熱のあるお米となることを願って。



○販売戦略について

家庭用「地域ブランド商品」としての販売拡大

JA全農ひろしまでは、収量や品質レベルが高く、粒感があるという特長を活かし、地域の食卓で長く愛されるお米になるよう、今後、作付面積の拡大に併せて、量販店や「JAお米の宅配便」などでの販売を展開していきます。

業務米への推進

冷めても硬くなりにくい、炊飯米が白く、外観品質が良好といった本品種の特長は、お弁当や丼などの業務需要へも活用の幅が広がっています。

今後、中食・外食向けの需要が高まる中で県内を中心とした実需者に向けて推進を図っていきます。

CM・広報活動

平成28年1月より、「恋の予感」の認知度アップに向けたテレビCM放送を開始し、平成28年9月までに県内4放送局にて448本の放映を予定しています。

さらに、販売店舗では、広島県産米に関する知識を備え、試食販売等を通じて消費者と直接コミュニケーションを図る「JAお米のアンバサダー」とともに、「恋の予感」をはじめ、広島県産米の魅力をPRしていきます。